

ブラジル金融政策（2024年7月）

2会合連続の政策金利据え置き

2024年8月1日

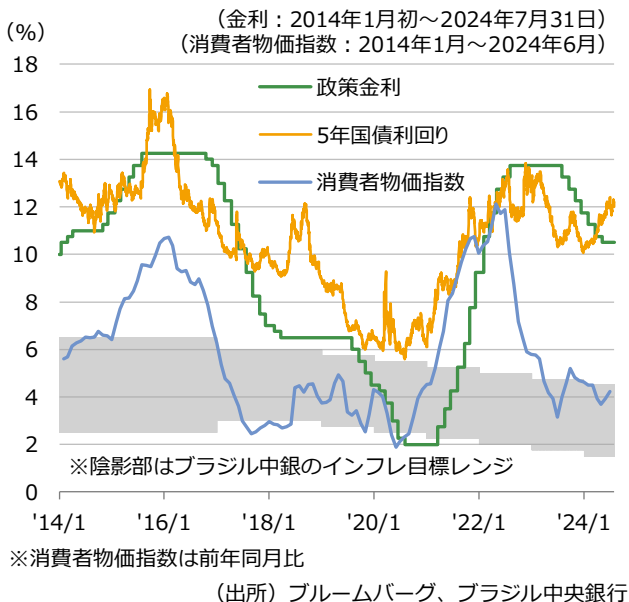
中銀は通貨安とインフレ期待上昇への懸念を強める

ブラジル中央銀行は7月30～31日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を10.50%に据え置くことを決定しました。据え置きは2会合連続で、前回に続いて全会一致での決定です。

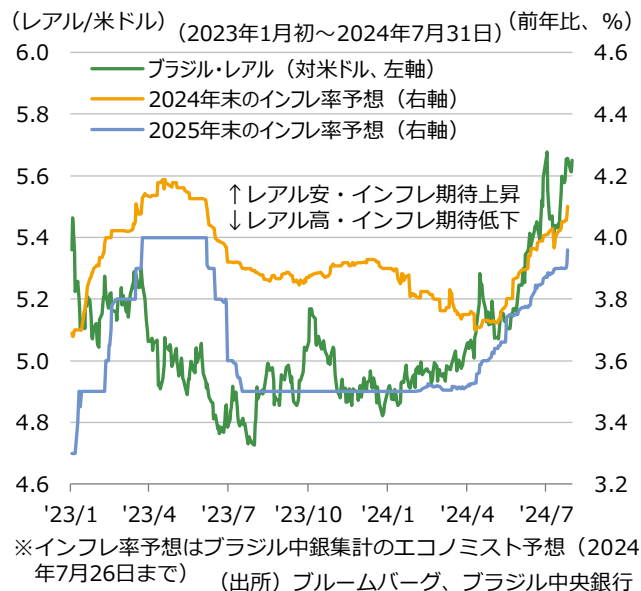
ブラジルのインフレ率は中銀の目標レンジ内で推移していますが、インフレ期待の上昇が続いており、同行は金融引き締め度合いを緩めること（利下げ）に対して慎重な姿勢です。今回の声明文は中銀が前回に比べて通貨安への懸念を強めたことを示す内容となりました。具体的には、これまでインフレ見通しの上振れ要因として、①インフレ期待が（目標の3%に）固定化されない期間の長期化、②需給ギャップの引き締めによるサービス価格インフレの予想以上の高止まり、を挙げていましたが、今回は③持続的な通貨安など国内外の経済政策によるインフレへの影響、が追記されました。その上で、「特に、金融市場の動向とインフレ期待の変化がインフレに与える影響が持続的であれば、より一層の警戒が必要となる」と述べており、少なくとも最近の通貨安とインフレ期待上昇の傾向が止まらない限り利下げ再開を検討することはなさそうです。

なお、ルラ大統領は利下げに消極的な中銀を批判していますが、通貨安やインフレ期待上昇の主因は財政政策の不確実性とみられるため、政府が財政健全化に向けた意志と道筋を示すこと自体が利下げ再開に向けた要件とも言えそうです。中銀は当面、高金利政策を維持することで通貨の下支えを図るでしょう。

ブラジルの金利とインフレ率



ブラジルの為替レートとインフレ率予想の変化



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management